

2017年（平成29年）

12月8日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

11/24~11/29のNYMEX・WTIは、57.30~58.95ドルの範囲で推移した。

11月30日は、この日、ウィーンのOPEC本部で第173回OPEC総会、第3回OPEC・非OPEC10カ国合同会議が開催され、協調減産日量180万バレルの2018年3月までの実施期間の2018年末までの9カ月延長、従来減産を免除されていたリビアとナイジェリアの減産への参加等が決定されたことから反発した。ただ、合意内容は想定範囲内で織り込み済みとする見方も強くその後上げ渋った。1月限の終値は前日比0.10ドル高の57.40ドルだった。

週末の12月1日は、前日の減産延長への好感から続伸したが、週末の利益確定売りやベーカー・ヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が749基と前週比2基増となったことが、圧迫材料となった。1月限の終値は前日比0.96ドル高の58.36ドルだった。

週明け4日は、価格回復によるシェールオイル増産への警戒感が広がり、利益確定売りもあって、3営業日振りに反落した。1月限の終値は前週末比0.89ドル安の57.47ドルだった。

5日は、協調減産の延長への期待感とシェールオイルの増産懸念が交錯する中、狭いレンジでの値動きの結果、小反発した。1月限の終値は前日比0.15ドル安の57.62ドルだった。

6日は、EIA週報で、市場予想を上回る原油在庫の取り崩しがあったが、原因がキイストーンパイプラインの一時的停止であったこと、米国産油量が史上最高水準に近付いていることなど、米国の増産の動きから続落した。1月限の終値は前日比1.66ドル安の55.96ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(1月

渡し)は、前週61.10~61.60ドルの範囲で推移した。11月30日61.00ドル、12月1日60.40ドル、4日61.00ドル、5日は60.00ドル、6日60.40ドルで推移した。

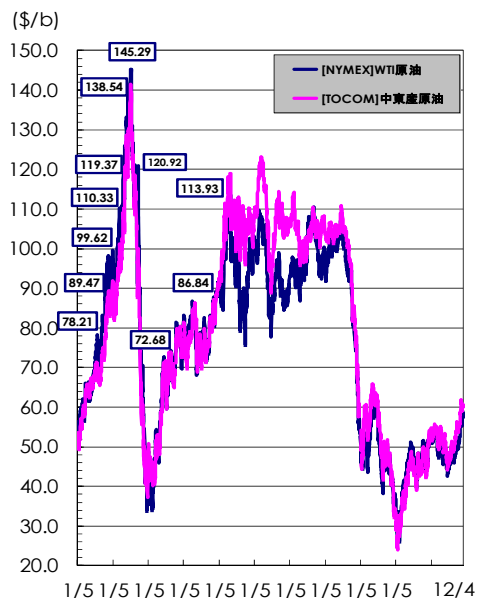
為替は、前週111.00~111.66円の範囲で推移した。11月30日112.05円、12月1日112.48円、4日112.77円、5日112.48円、6日112.48円で推移した。

財務省が7日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、11月中旬の原油輸入平均CIF価格は、41,257円/klとなり、前旬を801円上回った。ドル建てでは57.66ドルで前旬比0.88ドル高。為替レートは1ドル/113.74円。

主要元売会社の12月第2週に適用する卸価格は、ガソリン、軽油、灯油ともに、全社据え置きだった。原油価格はわずかに値下がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油調達コストはわずかな値下がりとなった。

そのような中で、12月4日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値上がり、軽油は同0.3円の値上がり、灯油も同0.4円の値上がりだった。ガソリンは12週連続の値上がり、軽油も12週連続の値上がり、灯油も12週連続(18ヶ月ベース)の値上がりだった。この週(12月第1週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油は全社据え置き、灯油は据え置きと0.5円の値上げに分かれた。

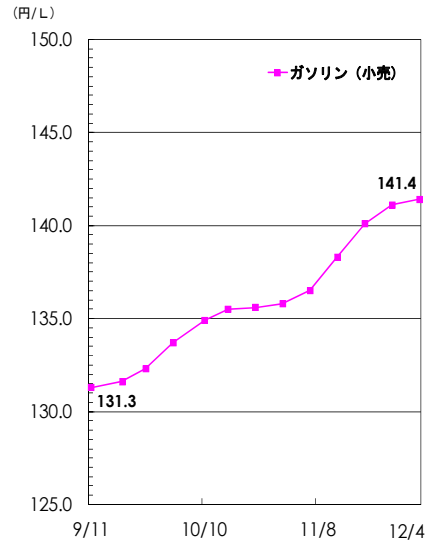
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/26 ~ 12/2	3,747 ▲97	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	95.7 ▲2.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	12/2	13,939 ▲922	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	12/4	60.55 ▼-0.06	▲ 9.8
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	12/4	57.47 ▼-0.64	▲ 5.7
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	11月中旬	57.66 ▲0.88	▲ 8.58
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	41,257 ▲801	▲ 8,842
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.74 ▼-0.46	▼ -8.75
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/4	113.77 ▼-1.11	▲ 1.04



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/26 ~ 12/2	1,075 ▲ 5	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	986 ▲ 52	▲ -	
	輸出	"	52 ▼ -150	▼ -	
	在庫	12/2	1,670 ▲ 37	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/28 ~ 12/4	58.8 ▼ -0.2	▲ 13.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/28 ~ 12/4	57.8 ▼ -0.3	▲ 11.9
		(TOCOM/中部)	12/4	57.8 ▼ -0.5	▲ 10.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/4	141.4 ▲ 0.3	▲ 15.4	

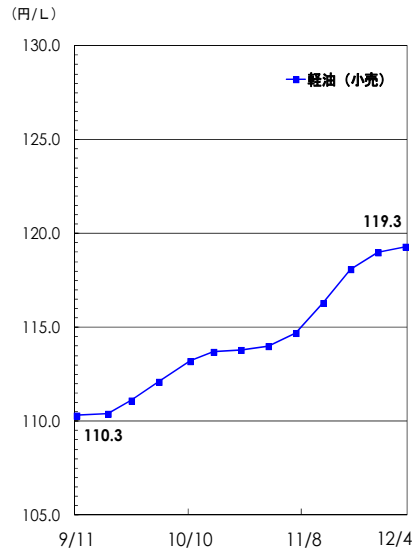
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

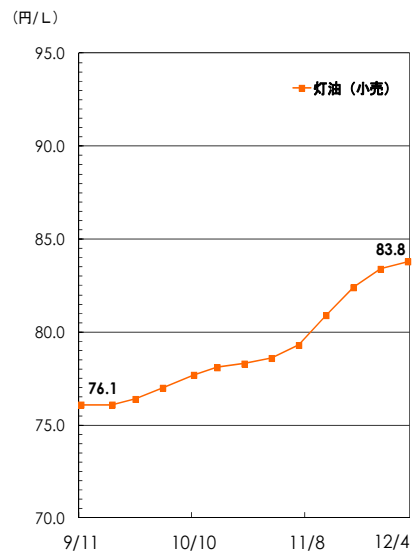
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/26 ~ 12/2	893 ▲ 84	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	727 ▲ 123	▲ -	
	輸出	"	241 ▲ 99	▲ -	
	在庫	12/2	1,376 ▼ -75	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/28 ~ 12/4	58.6 ▼ -0.1	▲ 13.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/28 ~ 12/4	58.0 → 0.0	▲ 13.2
		(TOCOM/中部)	12/4	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/4	119.3 ▲ 0.3	▲ 14.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/26 ~ 12/2	460 ▲ 1	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	431 ▼ -67	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -98	→ -	
	在庫	12/2	2,554 ▲ 29	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/28 ~ 12/4	60.9 ▲ 0.6	▲ 10.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/28 ~ 12/4	59.1 → 0.0	▲ 9.0
		(TOCOM/中部)	12/4	60.3 ▲ 0.3	▲ 9.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/4	83.8 ▲ 0.4	▲ 15.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

12月6日のNYMEX市場WTI原油は、この日の米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比560万バレル減と市場予想(340万バレル減)を上回る取り崩しであったものの、原因がキイストーンパイプラインの一時停止によるものであったこと、ガソリン在庫は680万バレル増と市場予想(170万バレル増)を上回る積み増しであったこと、米国産油量が日量970万バレルと1970年代の史上最高に近づいたことから、米国の供給過剰感が再燃し、30日に延長された協調減産の効果が相殺されるとの懸念から、大幅続落した。1月限の終値は前日比1.66ドル安の

55.96ドル、2月限の終値は前日比1.64ドル安の56.03ドルだった。

EIAによると、12月4日時点のガソリンの小売価格は前週比3.3セント値下がり(1ガロン2.500ドル(75.0円/ℓ))となった。ディーゼルは前週比0.4セント値下がり(2.922ドル(87.7円/ℓ))。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは2週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、11月26日~12月2日に休止したトッパー能力はなく、前週に対して8.6万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は374.7万klと、前週に比べ9.7万kl増加。前年に対しては3.2万klの減少。トッパー稼働率は95.7%と前週に対して2.5ポイントの増加、前年に対しては6.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェットのみが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/0.4%増、ジェット/43.6%減、灯油/0.1%増、軽油/10.4%増、A重油/3.3%増、C重油/27.2%増。今週のC重油の輸入は5.3万kl(前週比5.3万kl増)。軽油の輸出は24.1万kl(前週比9.9万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では灯油のみが減少となり、その他の油種で増加した。前年比では、ガソリン、ジェット、軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は98.6万kl(対前週5.6%増)と3週振りに前週比、前年比で増加となり、5週連続で100万klを下回った。ジェット8.8万kl(対前週81.3%増)、灯油43.1万kl(対前週13.4%減)、軽油72.7万kl(対前週20.2%増)、A重油25.0万kl(対前週

9.3%増)、C重油20.8万kl(対前週37.6%増)。

(単位:千KL)

	今週 (11/26 ~ 12/2)	前週 (11/19 ~ 11/25)	前週比	
ガソリン	986	934	▲ 52	(6%)
ジェット燃料	88	49	▲ 39	(80%)
灯油	431	498	▼ -67	(-13%)
軽油	727	604	▲ 123	(20%)
A重油	250	229	▲ 21	(9%)
C重油	208	151	▲ 57	(38%)
合計	2,690	2,465	▲ 225	(9%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月2日時点の在庫は、ガソリン、灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、軽油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは167.0万kl、前週差3.7万kl増。前年に対しては5.1万kl多い。

灯油は255.4万kl、前週差2.9万kl増。前年に対しては32.2万kl多い。

軽油は137.6万kl、前週差7.5万kl減。前年に対しては10.5万kl少ない。

A重油は65.8万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては5.2万kl少ない。

C重油は209.5万kl、前週差5.7万kl増。前年に対しては21.8万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (12/2)	前週 (11/25)	前週比	
ガソリン	1,670	1,633	▲ 37	(2%)
ジェット燃料	978	1,060	▼ -82	(-8%)
灯油	2,554	2,525	▲ 29	(1%)
軽油	1,376	1,451	▼ -75	(-5%)
A重油	658	670	▼ -12	(-2%)
C重油	2,095	2,038	▲ 57	(3%)
合計	9,331	9,377	▼ -46	(-0.5%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月28日から12月4日までの原油コストは、原油価格はわずかに値下がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストはわずかに値下がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン112円台で値上がり、軽油58円台でわずかに値上がり、灯油60～61円台でやや値上がりし推移した。

海上スポット価格は、ガソリン113～114円台で値上がり、軽油59～61円台で値上がり、灯油58～59円台で値上がり

し推移した。

先物価格は、ガソリン111円台でやや値上がり、軽油58円台で横ばい、灯油58～59円台で値上がりし推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きだった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月28日から12月4日の原油コストはわずかな値下がりだったが、製品スポット市況は、各種灯油と海上のガソリン・先物の軽油は値上がりしないし横ばいだったが、陸上・先物のガソリン、陸上・海上の軽油は値下がりした。

12月第2週(12月7日～13日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(11月28日～12月4日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.2円の値下がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は0.1円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.1円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.3円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.3円の値下がり、灯油は横ばい、軽油も横ばいだった。原油価格はわずかに値下がりし、為替はほぼ横ばいで、原油コストはわずかな値下がりだった。

12月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも全社据え置きだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (11/28 ~ 12/4)	前週 (11/21 ~ 11/27)	前週比
レギュラー	58.8	59.0	▼ -0.2
灯油	60.9	60.3	▲ 0.6
軽油	58.6	58.7	▼ -0.1
【期近物/終値】 [平均]	今週 (11/28 ~ 12/4)	前週 (11/21 ~ 11/27)	前週比
レギュラー	57.8	58.1	▼ -0.3
灯油	59.1	59.1	→ 0.0
軽油	58.0	58.0	→ 0.0

※上記価格は税抜き価格

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.2	▼ -0.3	▼ -0.3
灯油	▲ 0.6	→ 0.0	▲ 0.3
軽油	▼ -0.1	→ 0.0	▼ -0.1
A重油	▼ -0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

12月4日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円高の141.4円を付け本年最高値を9週連続で記録、軽油は同0.3円高の119.3円、灯油は同0.4円高の83.8円だった。ガソリンは12週連続の値上がり、軽油も12週連続の値上がり、灯油も12週連続(18ペース)の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは32都道府県で、横ばいは9県、値下がり6県だった。全国最安値は埼玉県の136.5円(同0.3円高)、次が千葉県の137.1円(同0.2円高)、最高値は長崎県の149.3円(同1.8円高)だった。最も値上がりしたのも、1.8円高の長崎県(149.3円)だった。

先週の原油コストはわずかに値上がりし、元売会社の卸価格は、ガソリン・軽油は全社据え置き、灯油は据え置きと0.5

円値下げに分かれたが、12週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格はわずかに値下がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストはわずかに値下がりした。元売会社の卸価格は、各油種とも全社据え置きだった。次週(12月11日)のガソリン・灯油の小売価格は横ばいが予想される。

	今週 (12/4)	前週 (11/27)	前週比	直近高値
レギュラー	141.4	141.1	▲ 0.3	08/8/4 185.1
灯油	83.8	83.4	▲ 0.4	08/8/11 132.1
軽油	119.3	119.0	▲ 0.3	08/8/4 167.4

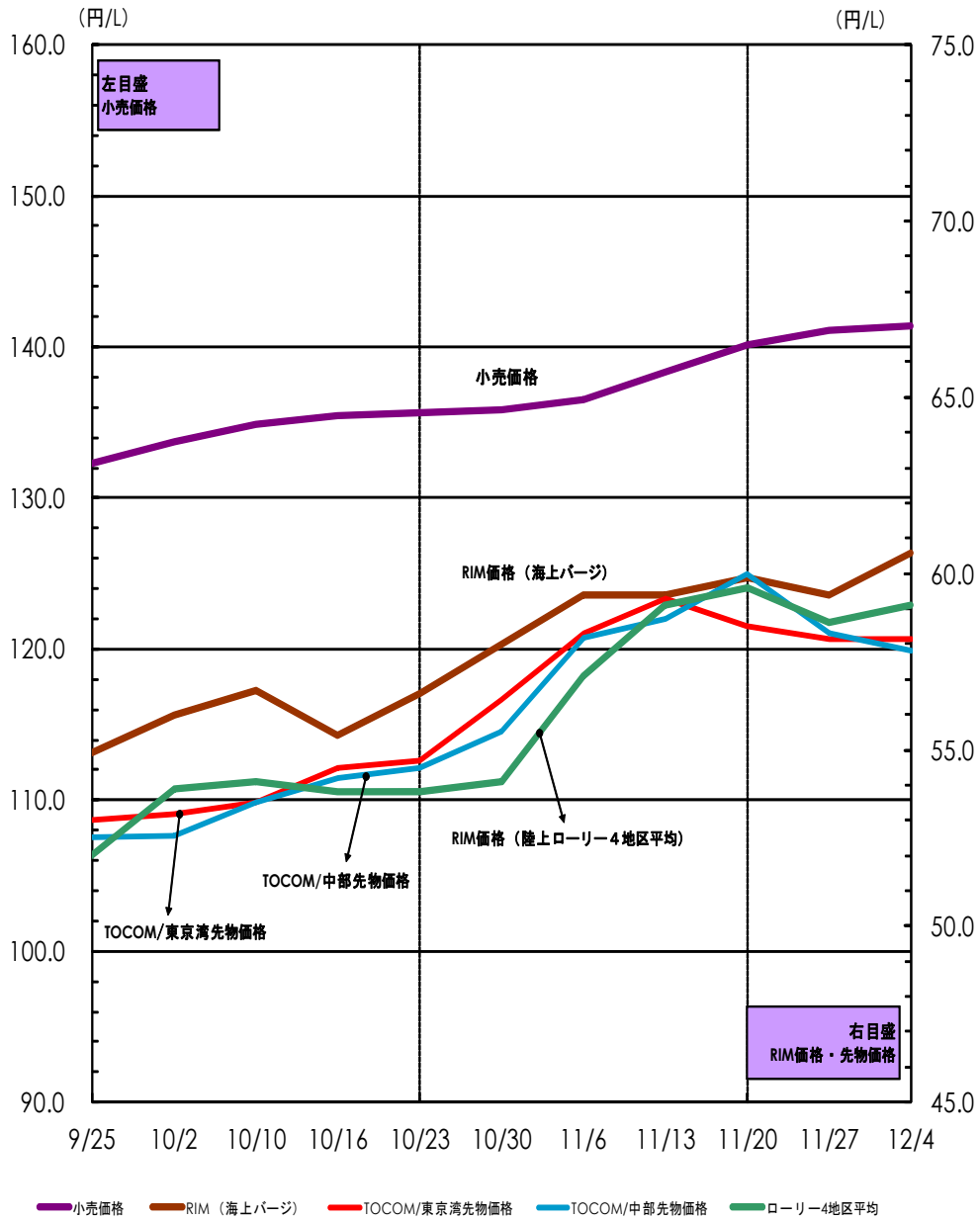
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2017/9/25 ~ 2017/12/4)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2017第35号)の公表は、12/15(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年3月末現在)は、7月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。